

本上遺跡

埋蔵文化財調査報告

2013

伊奈町教育委員会

序

この度、伊奈町埋蔵文化財調査報告書第2集として、本上遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

本上遺跡は、伊奈町の中北部にあり、これまで本報告がなかったものの、縄文時代晩期に属する遺跡として資料紹介がされており、学史的には著名な遺跡です。『伊奈町史通史編Ⅰ 原始・古代・中世・近世』のなかでは「氷川神社裏遺跡」として記載しています。今回、発掘調査報告書を刊行するにあたり、小字名から名前を取り「本上遺跡」としました。

伊奈町では、近年の人口増加率・出生率が県内上位となっており、現在も新たな住宅が次々と建設されています。そのようななか、本上遺跡地内で住宅建設に伴う土地造成計画が立ち上がり、現状保存が困難となったため、記録保存の措置を講ずることとなり、平成23年度に本教育委員会が発掘調査を実施し、その成果として本報告書を刊行いたしました。

本上遺跡は、縄文時代晩期の遺跡であることはすでにわかっておりましたが、発掘調査の結果、縄文時代中期から集落がつくられ始め、晩期まで続いたことがわかりました。また、厚い遺物包含層からは大量の土器片とともに、祭祀に使われたとされている土偶やミニチュア土器・石棒・石剣、装飾品として用いられた耳飾りや翡翠製大珠など、多種多様の遺物が出土しました。これら出土遺物の量と種類、周辺の現状地形から本遺跡が環状盛土遺構であることがわかりました。土偶や翡翠製大珠などの遺物は伊奈町の貴重な財産です。出土した遺物など今回の発掘調査の成果から周辺地域における原始の集落形態や祭祀のあり方など多くのことが明らかになるものと期待され、いまも当時の地形に近い状態で現存している本上遺跡を保存・活用し、後世へ伝えていくことは、私たちに課された責任もあると考えます。

最後になりましたが、貴重な埋蔵文化財の記録保存事業にご理解とご協力を賜り、現地での調査から本報告書刊行までご協力いただいた土地所有者様、関係各位の皆様に心から感謝申し上げ、本書の序とします。

平成25年3月

伊奈町教育委員会
教育長 坂井貞雄

例 言

1. 本調査報告書は埼玉県北足立郡伊奈町本町二丁目156番2ほかにおける埋蔵文化財調査報告書である。
2. この発掘調査は、宅地造成に伴うものであり、発掘調査から調査報告書刊行までの一切の業務は、開発事業主である株INAハウスから伊奈町教育委員会が委託を受けて実施し、すべての費用は株INAハウスのご負担によるものである。
3. 発掘調査及び整理作業は以下の日程で行った。

確認調査	平成24年1月10日・12日
発掘調査	平成24年2月21日～3月30日
整理作業	平成24年4月9日～27日、5月23日～6月20日、12月20日～平成25年1月28日
4. この発掘調査は伊奈町教育委員会が主体者となって行った。組織は以下のとおりである。

教育長	坂井貞雄
教育次長	清水弘
生涯学習課	岡安利之、渋谷鉄二（平成23年度）、小平玲子、藤原厚也、齊藤雅之（平成24年度）、小坂真由美、山田貴大、岸清俊（平成24年度）、茂木洋一、松本玲子、高山友美（平成24年度）、俗間友美
調査担当者	小杉秀幸
5. 本書における基準点測量は、㈲S G プランに委託した。
6. 出土品の整理及び写真撮影、本書の執筆・編集は小杉が行った。
7. 土偶の実測及び観察表の作成は、小野美代子氏に依頼した。
8. 出土遺物が多量であったため、本書では報告することができなかった遺物がある。それらの遺物については、未報告の調査で出土した遺物とともに、改めて報告する。
9. 出土遺物は伊奈町教育委員会が保管している。
10. 発掘調査及び整理作業の参加者は次のとおりである。（敬称略）

伊藤弘子、今里明子、柿沼順子、金子喜美子、川嶋軍治、小荒井邦雄、田中きよ子、田中優起、西河幸雄、野本恵美子、宮崎文昭、山田常恵、吉川新一郎、世取山重之。
11. 発掘調査、本書の作成にあたり、下記の機関・方々からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします（順不同、敬称略）

財埼玉県埋蔵文化財調査事業団、蓮田市教育委員会、桶川市教育委員会、小野美代子、金子直行、細田勝、木戸春夫、西井幸雄、渡辺清志、田中和之、小宮雪晴、藤沼昌泰、小川真、植田雄己、吉田幸一。

凡　例

1. 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を示す。
F3グリッド北西杭の座標
北緯35° 59'48" 東経139° 37'52"
2. 調査区で使用したグリッドは、10m×10mのグリッドを設定した。
3. グリッドの名称は、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に算用数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと算用数字を組み合わせた。
4. 本書の本文、挿図、表中に記した遺構の略号は以下の通りである。
SJ=堅穴住居跡
SK=土壙 P=ピット・柱穴
5. 本書における挿図の縮尺は、右記の通りである。例外的なものについては、個別に示した。
6. 遺構断面図に標記した水準数値は、海拔標高を表す。単位はmである。
7. 本書に使用した地形図は、「埼玉県の地形」1/65,000（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、国土地理院発行1/25,000（「久喜」・「鴻巣」・「岩槻」・「上尾」）、「伊奈町全図7」1/2,500（平成22年発行）を使用して、編集した。

遺構図

全体図 1/100

住居 1/60 土壙 1/60

遺物実測図

土偶 1/2 1/3

目 次

序		III	遺跡の概要	6
例言		IV	遺構と遺物	10
凡例		1.	縄文時代の遺構と遺物	10
目次		(1)	住居跡	10
I 発掘調査の概要	1	(2)	土壤・埋甕・焼土	13
1. 発掘調査に至る経緯	1	(3)	遺構外出土遺物	15
2. 発掘調査・報告書作成の経過	1	V 調査のまとめ	17	
II 遺跡の立地と環境	2	1.	調査の成果	17
1. 地理的環境	2	写真図版		
2. 歴史的環境	3	抄録		

挿 図 目 次

第1図 伊奈町の位置		第8図 第2号住居跡遺構図	
第2図 埼玉県の地形		第9図 第3号住居跡遺構図	
第3図 周辺の遺跡		第10図 第1・4・6・16号土壤遺構図	
第4図 基本土層		第11図 第1号埋甕、焼土1・2遺構図	
第5図 遺跡の範囲		第12図 遺構外出土土製品①土偶	
第6図 調査区全体図		第13図 遺構外出土土製品②土偶	
第7図 第1号住居跡遺構図		第14図 遺構外出土土製品③土偶・土版	

表 目 次

第1表 周辺の遺跡

第2表 遺構外出土遺物（土偶・土版）一覧表

写 真 図 版 目 次

図版 1	1 全景写真（北から）	図版 5	1 第1号土壤 完掘状況（北東から）
	2 全景写真（南から）		2 第4号土壤 遺物出土状況
図版 2	1 第1号住居跡 完掘状況（南東から）		3 第4号土壤 完掘状況（西から）
	2 第1号住居跡 埋甕炉遺物出土状況	図版 6	1 第6号土壤 完掘状況（北から）
	3 第1号住居跡 第1号埋甕出土状況		2 第16号土壤 完掘状況（西から）
図版 3	1 第1号住居跡 第2号埋甕出土状況		3 第1号焼土 完掘状況（西から）
	2 第2号住居跡 完掘状況（南から）	図版 7	1 第2号焼土 完掘状況（東から）
	3 第3号住居跡 完掘状況（南東から）		2 第1号埋甕 出土状況（西から）
図版 4	1 第3号住居跡 炉跡完掘状況（北から）		3 遺構外遺物出土状況
	2 第3号住居跡 埋甕出土状況	図版 8	1 第1号住居跡出土炉体土器
	3 第1号土壤 遺物出土状況		2 第1号住居跡出土第1号埋甕

- 3 第1号住居跡出土第2号埋甕
 4 第3号住居跡出土埋甕
 5 第1号土壤出土遺物①
 6 第1号土壤出土遺物②
- 図版9 1 第1号土壤出土遺物③
 2 第1号土壤出土遺物④
 3 第4号土壤出土遺物
 4 第1号埋甕出土遺物
 5 遺構外出土遺物①
 6 遺構外出土遺物②
- 図版10 1 遺構外出土遺物③
 2 遺構外出土遺物④
 3 遺構外出土遺物⑤
 4 遺構外出土遺物⑥
 5 遺構外出土遺物⑦
 6 遺構外出土遺物⑧
- 図版11 1 第1号土壤出土土製品
 2 遺構外出土遺物⑨
 3 遺構外出土遺物⑩
 4 遺構外出土遺物⑪
 5 遺構外出土遺物⑫
 6 遺構外出土遺物⑬
 7 遺構外出土遺物⑭
 8 遺構外出土遺物⑮
- 図版12 1 遺構外出土上土製品①（第12図）
 2 遺構外出土上土製品①裏面（第12図）
 3 遺構外出土土製品②（第12図）
 4 遺構外出土土製品②裏面（第12図）
 5 遺構外出土土製品③（第12図）
 6 遺構外出土土製品③裏面（第12図）
 7 遺構外出土土製品④（第12図）
 8 遺構外出土土製品④裏面（第12図）
- 図版13 1 遺構外出土土製品⑤（第13図）
 2 遺構外出土土製品⑥（第13図）
 3 遺構外出土土製品⑦（第13図）
 4 遺構外出土土製品⑦裏面（第13図）
 5 遺構外出土土製品⑧（第13図）
 6 遺構外出土土製品⑧裏面（第13図）
 7 遺構外出土土製品⑨（第13図）
 8 遺構外出土土製品⑩（第13図）
- 図版14 1 遺構外出土土製品⑪（第14図）
 2 遺構外出土土製品⑪裏面（第14図）
 3 遺構外出土土製品⑫（第14図）
- 4 遺構外出土土製品⑬（第14図）
 5 遺構外出土土製品⑭（第14図）
 6 遺構外出土土製品⑭裏面（第14図）
 7 遺構外出土土製品⑮（第14図）
 8 遺構外出土土製品⑯（第14図）
- 図版15 1 遺構外出土土製品⑰（第14図）
 2 遺構外出土土製品⑲（第14図）
 3 遺構外出土土製品⑲
 4 遺構外出土土製品⑳
 5 遺構外出土土製品㉑
 6 遺構外出土土製品㉒
 7 遺構外出土土製品㉓
 8 遺構外出土石器①
- 図版16 1 遺構外出土石器②
 2 遺構外出土石器②裏面
 3 遺構外出土石製品①
 4 遺構外出土石製品①裏面
- 図版17 1 第2号住居跡出土土器片
 2 第3号住居跡出土土器片
 3 第1号土壤出土土器片①
 4 第1号土壤出土土器片②
 5 第1号土壤出土土器片③
 6 第4号土壤出土土器片
- 図版18 1 第6号土壤出土上土器片
 2 第16号土壤出土上土器片
 3 焼土1出土遺物
 4 第2号住居跡、第3号住居跡、
 第1号土壤出土石器
 5 第1号土壤出土石器
 6 遺構外出土土器片①
- 図版19 1 遺構外出土土器片②
 2 遺構外出土土器片③
 3 遺構外出土土器片④
 4 遺構外出土土器片⑤
 5 遺構外出土土器片⑥
 6 遺構外出土土器片⑦
- 図版20 1 遺構外出土土器片⑧
 2 遺構外出土土器片⑨
 3 遺構外出土石器①
 4 遺構外出土石器②
 5 遺構外出土石器③
 6 総合文化祭での展示の様子

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経緯

本上遺跡は、埼玉県遺跡地図にNo18-028として登載されている。30年ほど前に発掘調査がおこなわれているが報告されておらず、詳細は不明である。

この度、宅地造成に先立ち試掘調査を行ったところ縄文土器が大量に出土した。現状保存ができない状況となり、やむを得ず発掘調査による記録保存を行うこととなった。

調査範囲については、試掘調査において遺物が確認された場所をもとに決定した。

文化財保護法第93条の2第1項の規定に基づき、工事主体者である（株）INAハウスから平成24年1月25日付けで発掘届けが提出された。この届けに対し埼玉県教育委員会から平成24年2月9日付け教生文第4-1303号で発掘調査の実施が指示された。

調査は、伊奈町教育委員会の直営で実施した。

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

本上遺跡の発掘調査は、平成24年2月21日～3月30日に実施した。調査対象面積は1031m²で、発掘調査面積は440m²である。

平成24年1月中旬に事務手続きを行った。2月下旬から重機による表土除去作業を行い、人力による遺構確認作業後、順次土層断面図、平面図等の作成、写真撮影を行った。2月下旬に基準点測量を実施した。平成24年3月28日に遺構の分布状況を把握するため、発掘調査区の全景写真を撮影した。事務処理等を含めたすべての作業を平成24年3月30日に終了した。

調査の結果、縄文時代中期竪穴式住居跡1軒、後期竪穴式住居跡2軒、土壙4基などを検出した。遺物は、縄文時代中期から晩期の土器・石器・土製品・石製品がコンテナに70箱分出土した。縄文時代後晩期の環状盛土遺構であることが判明し、様々な種類の遺物から集落の一端が明らかとなつた。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書作成事業は、発掘調査終了後平成24年4月上旬から遺物の水洗・注記作業を始め、6月中旬まで断続的に遺物の接合・復元作業を行った。同時に遺構図面の修正・第二原図・全体図の作成を行った。

12月中旬より遺物写真撮影、遺物写真図版の編集作業を行った。作業が終了した段階で、遺構図面類・出土遺物を分類・整理し、収納作業を行った。なお、11月3・4日に開催された伊奈町総合文化祭のなかで「縄文文化にふれよう～本上遺跡を中心として」展を行った。

7月中旬に、印刷会社を決定し、平成25年1月入稿した。2回の校正を経て、3月中旬に報告書を刊行した。

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

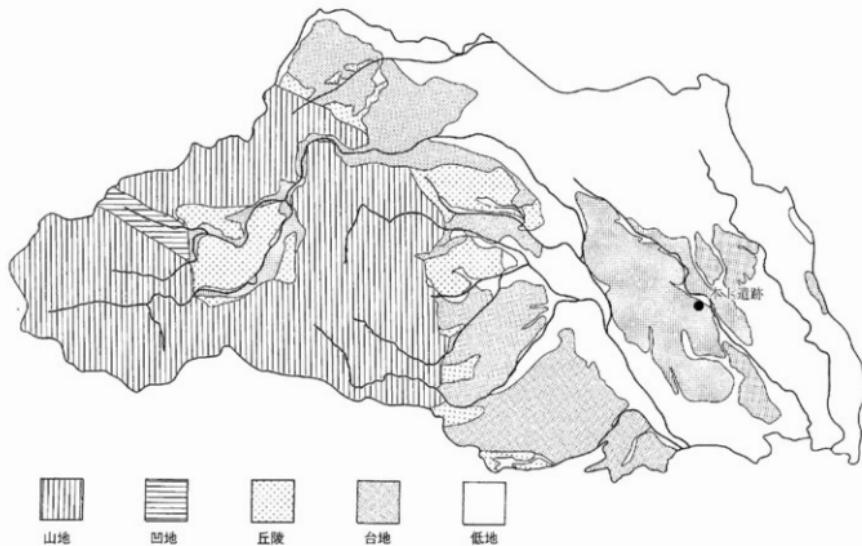
本上遺跡の所在する伊奈町は、埼玉県東部平地のはば中央に位置している。町の大部分は大宮台地上にあり、東側に綾瀬川、西側に原市沼川が流れ、冲積低地を形成している。

首都中心部から約40kmの位置にあり、町境は上尾市、桶川市、連田市に接している。町内には国道および主要鉄道の駅はないが、上越・東北新幹線の軌道を利用した埼玉新都市交通（ニューシャトル）の駅が5駅設置されている。主要地方道の整備や区画整理事業などによる宅地化が進み、人口が増加している。それに伴い、緑地や農耕地が急激に減ってきている。

町内における最高点は北西端で標高20m、南東が低く、最も低い場所で標高8.4mを測る。台地の南部では標高10mの等高線が台地の縁となっている。



第1図 伊奈町の位置



第2図 埼玉県の地形 (1/650000)

2. 歴史的環境

本上遺跡（1）の周辺には、多くの遺跡が存在する。近年では、埼玉県教育委員会や埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって多くの遺跡で発掘調査が行われてきた。

綾瀬川流域は、縄文時代前期の貝塚が集中する地域であり、大針貝塚（9）、小貝戸貝塚（12）、関山貝塚（24）、黒浜貝塚（27）が著名である。

伊奈町域において、旧石器時代の遺物が出土している主な遺跡は、向原遺跡（2）で剥片の石器集中が見つかっているほか、北遺跡（10）で尖頭器、原遺跡（8）で細石器・細石核、久保山遺跡（13）でナイフ形石器などが出土している。

縄文時代では草創期の遺物は見つかっていないものの、早期には戸崎前遺跡（4）で炉穴2基が検出されており、撫糸文土器・条痕文土器を中心とする土器群が出土している。前期になると戸崎前遺跡と谷畑遺跡（7）で住居跡が検出されている。小貝戸貝塚・大針貝塚では、貝塚が残されている。大針貝塚では学術発掘が行われており、2軒の住居跡と地点貝塚が発見されている。これらの貝塚は、白岡市や蓮田市の綾瀬川流域の遺跡と密接な関係が考えられる。中期の遺跡としては、北遺跡で72軒、原遺跡で100軒前後の住居跡が検出されている。両遺跡とも未発掘部分があるため今後も住居跡数が増加するものと思われる。他にも中期の集落と考えられる遺跡が多くある。後期になると遺跡の数は激減するが、本上遺跡（1）で環状盛土遺構が形成されている。戸崎前遺跡で住居跡が見つかっている。晩期の遺構としては、大山遺跡（15）で埋甕が見つかっているだけである。遺物としては、本上遺跡、伊奈氏屋敷跡（16）でまとまった土器群が出土している。周辺では、正福院貝塚（19）、久台遺跡（32）、雅楽谷遺跡（37）、前田遺跡（38）、清左衛門遺跡（39）で後晩期の遺構や大量の遺物が確認されている。他に

も第1表遺跡番号（17）～（23）・（25）・（26）・（28）～（39）の遺跡で後晩期の遺構や遺物が確認されている。また、後晩期の遺跡は斜面や低地部に存在する場合も多く、発見するのが難しい。町内でも今後の調査により遺跡の数が増える可能性もある。

弥生時代の遺跡では、分布調査で土器片が採集されているが、遺構は見つかっていない。

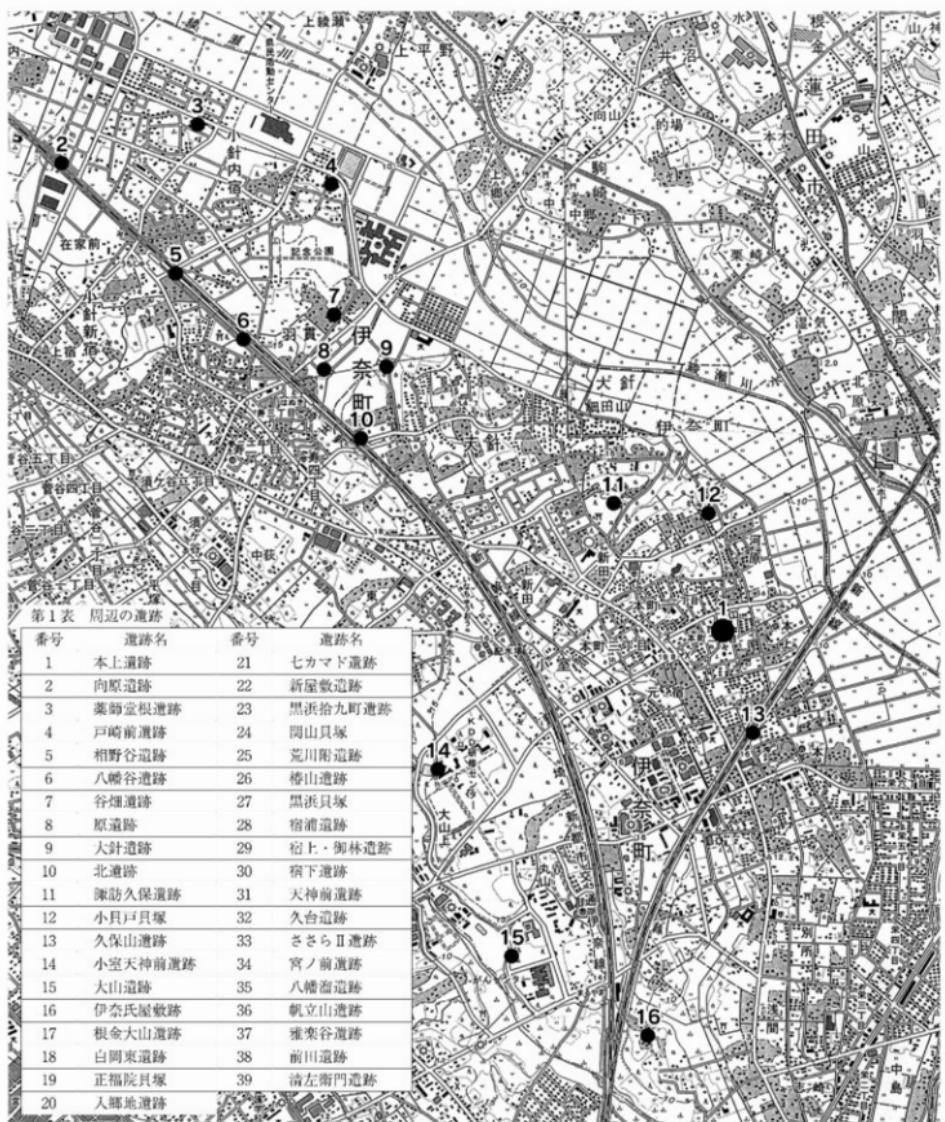
古墳時代になると再び遺跡の数が増え、薬師堂根遺跡（3）、戸崎前遺跡、向原遺跡、大山遺跡、小室天神前遺跡、諏訪久保遺跡（11）で住居跡や方形周溝墓が検出されている。同じ綾瀬川流域の蓮田市域では、荒川付遺跡（25）等で住居跡が検出されている。

奈良時代の遺跡は戸崎前遺跡で8世紀中葉以降の住居跡が4軒検出され、大山遺跡でも7軒の住居跡が検出されている。

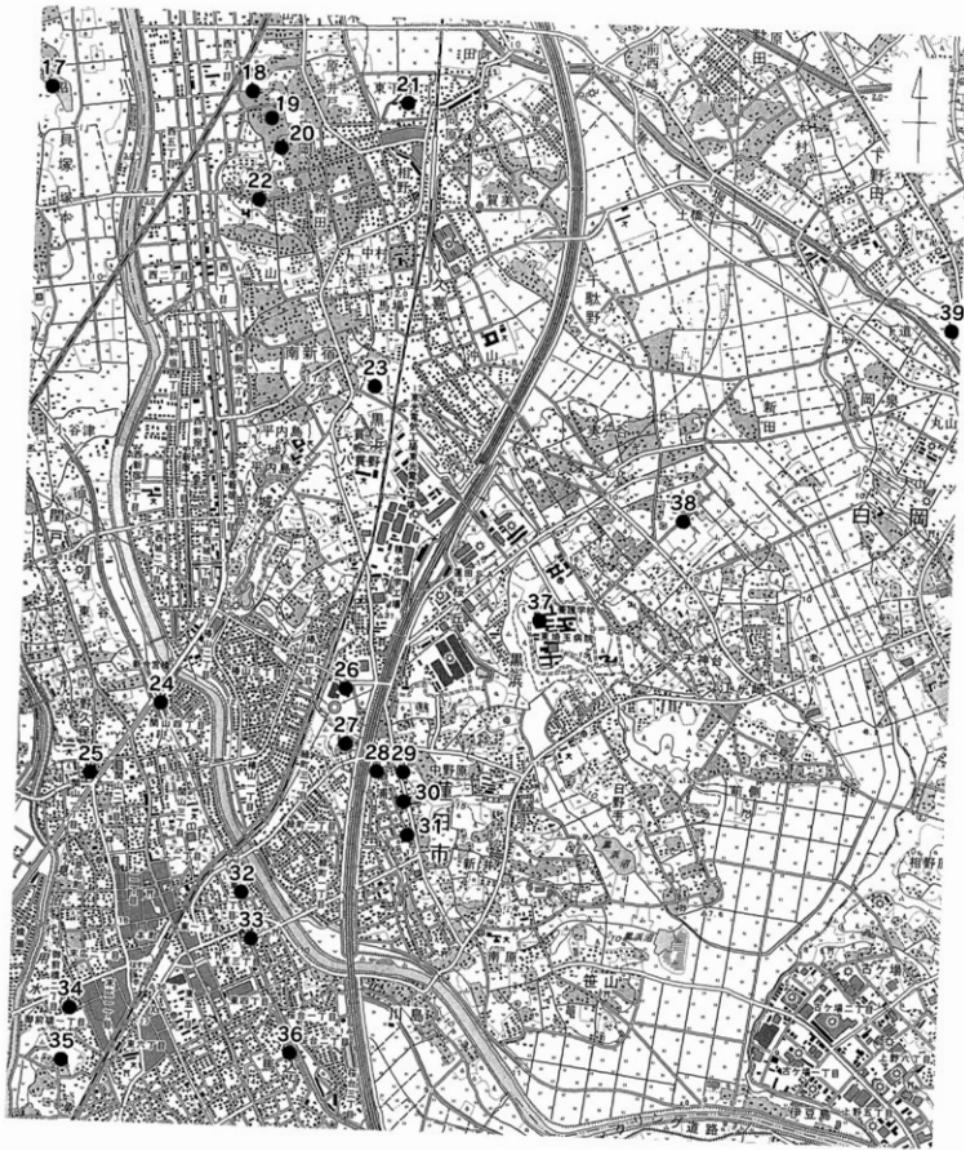
平安時代では、向原遺跡で4軒、薬師堂根遺跡で1軒、戸崎前遺跡で6軒検出されている。大山遺跡では、23軒の住居跡が検出されているほか、20基の製鉄炉が検出されており、大規模製鉄遺跡であることが判っている。また、上尾市域を含む周辺の遺跡で多くの炭焼窯が検出されており、大山遺跡との関連が伺える。

中世では、相野谷遺跡（5）で、柱穴群とともに中世瓦が出土している。戸崎前遺跡では土橋を伴う一辻70mの堀跡が検出されており、出土遺物により、13世紀末から14世紀中頃と推定される。八幡谷遺跡（6）、薬師堂根遺跡では、墓壙、建物跡が検出されている。また、伊奈氏屋敷跡で「障子堀」が検出されている。

近世になると、徳川家康の江戸城入府に伴い、伊奈備前守忠次が代官頭となり、この地に陣屋を築いた。現在はこの陣屋が県指定史跡となってお



第3図 周辺の遺跡



- 51 -

III 遺跡の概要

本上遺跡は、北東から入り込んだ小支谷の最奥部南側に立地しており、遺跡内の湧水点から小支谷へ湧水が流れ込んでいたようだ。標高は約16mで低地部とは4mの比高差がある。

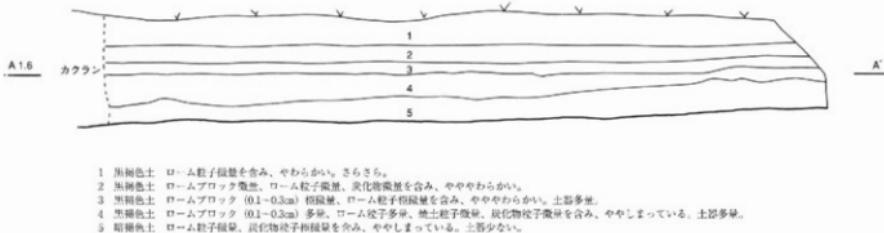
遺跡の範囲は、氷川神社境内にある湧水点を中心とし直径約180mの範囲に環状盛土が形成されている。

これまでの調査歴としては、30年ほど前に氷川神社の北側と西側の道路部分を発掘調査しており、コンテナ約200箱分の遺物が出土している。出土遺物は未整理で詳細はわかつてないが、縄文時代後晩期の遺物が主となるよう、土偶なども出土している。遺構についても不明である。ほかに氷川神社裏遺跡の遺物として、『金鏡』第22号に発表されている（細田1980）

遺跡内低地部の図書館が建っている場所には、池があった。図書館建設の際には遺構などを確認することはできなかったが、現在は調査の技術も上がり、低地部での発掘調査例も増えてきている。近年、環状盛土に面する低地部から遺物が多く出土する報告例もあるので、本上遺跡においても図書館を含む低地部に遺構・遺物が残っていることが考えられる。

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の中後葉の堅穴住居跡1軒、縄文時代後期の住居跡2軒、縄文時代の土壙4基、近世の土壙である。

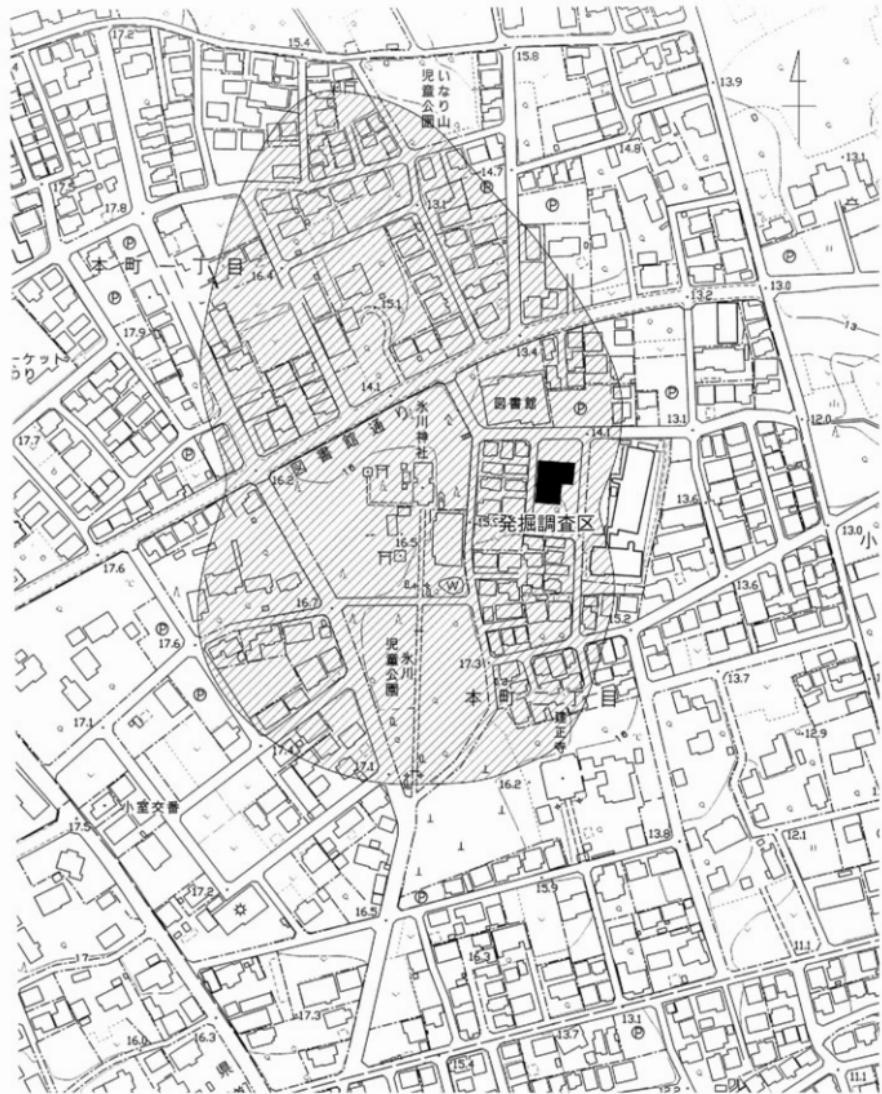
遺跡の主体となるのは、縄文時代後期・晩期である。大量の遺物が出土し、遺物の種類も豊富で深鉢型土器や浅鉢型土器、台付土器や注口土器、土偶、耳飾、大珠などが出土した。



- 1 黒褐色土 ローム粒子微量を含み、やわらかい。さらさら。
- 2 黒褐色土 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化物微量を含み、やややわらかい。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (0.1~0.3cm) 多量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。土器多量。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (0.1~0.3cm) 多量、ローム粒子多量、磁土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。土器多量。
- 5 茶褐色土 ローム粒子微量、遺物粒子微量を含み、ややしまっている。土器少なし。

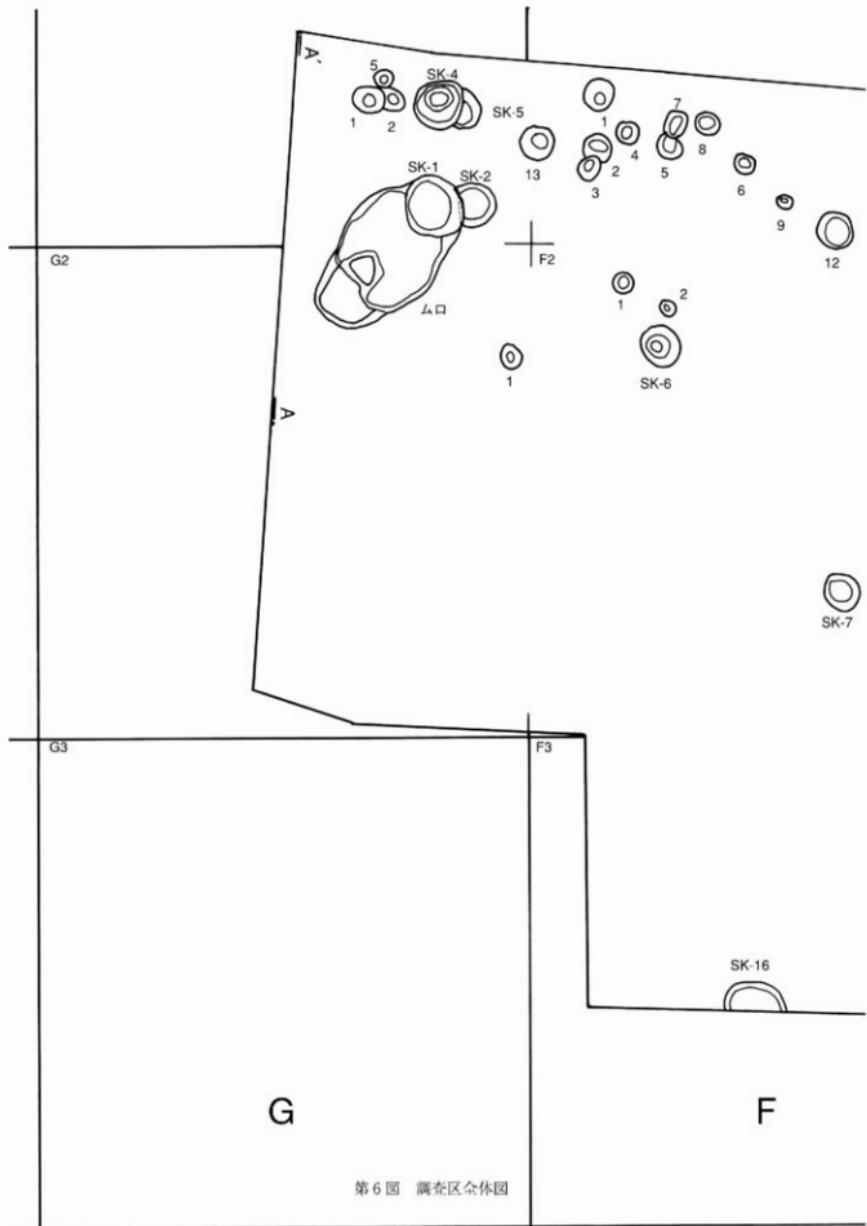
第4図 基本土層



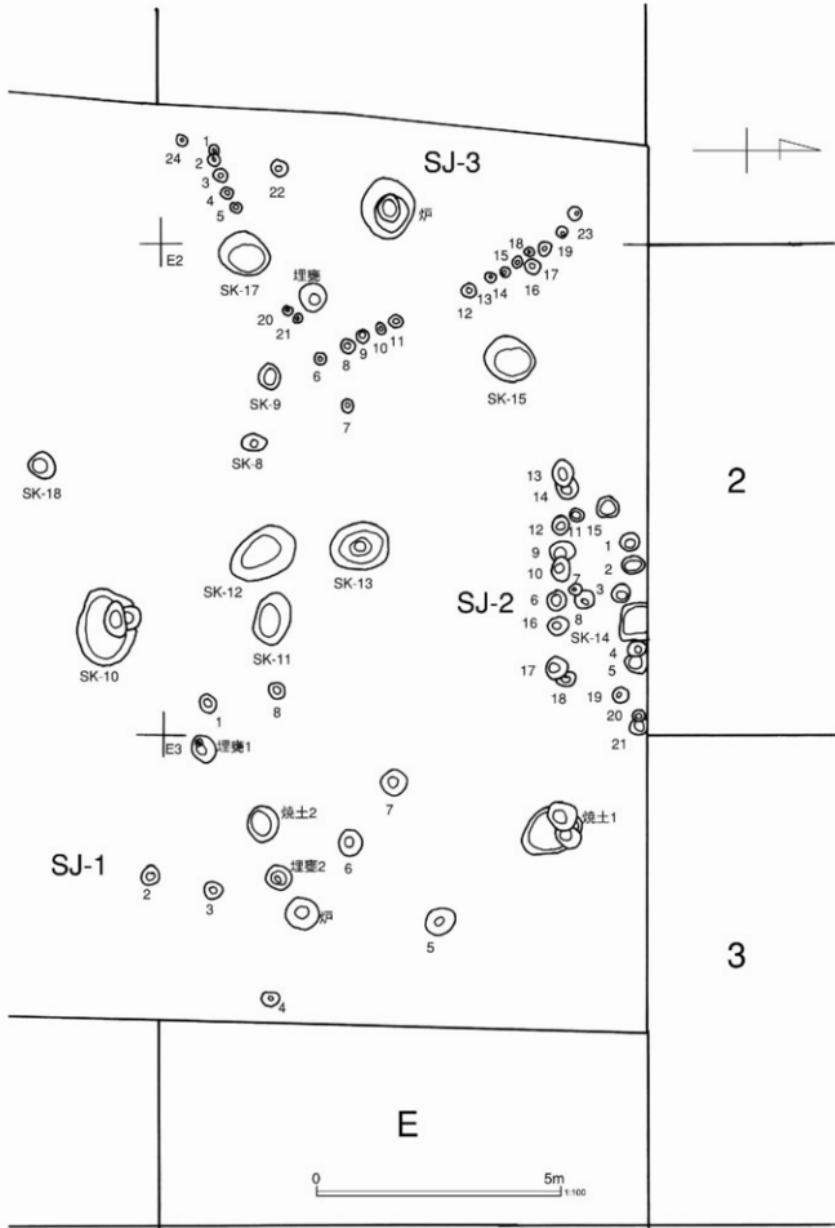


第5図 遺跡の範囲

0 100m
1:2500



第6図 濃査区全体図



IV 遺構と遺物

1. 繩文時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

第1号住居跡（第7図、図版2）

第1号住居跡は、調査区南東端のE-3グリッドに位置し、東に向かって傾斜が始まる場所に構築されている。住居の掘り込みは確認できなかった。埋甕及び炉、柱穴の位置から平面形態は、柄鏡形を呈すると思われる。主柱穴ははっきりとしない。

2基の埋甕と炉体土器の時期差から2時期の住居が重複しているが、柱穴がどちらの住居に伴うものなのかは不明である。

住居跡中央やや東寄りに炉跡を検出した。平面形は梢円形で、底面に被熱による硬化は見られなかつたが、覆土中から焼土を検出した。炉体土器が出土している。

本住居跡の所属時期は、縄文時代中期の加曾利EV1式期に属する。

第1号住居跡出土遺物（図版2、3、8）

炉体土器は深鉢形土器で、胴部と口縁部の一部を復元することができた。残存高42.8cm、残存胴部最大径58.0cmである。

埋甕1は深鉢形土器で、胴部と底部を復元することができた。残存高36.4cm、残存胴部最大径35.0cm、底径7.4cmである。

埋甕2は深鉢形土器で、完形の状態で出土した。高さ45.2cm、口径35.1cm、底径6.5cmである。

第2号住居跡（第8図、図版3）

第2号住居跡は、調査区北端のE-2グリッドに位置している。北に向かって傾斜が始まる位置に構築されている。住居の掘り込みは確認できなかつた。柱穴の切り合い関係から2時期の住居が重複している。住居の大部分は調査区外に統いでいるため規模は不明である。

本住居跡の所属時期は、出土遺物から縄文時代

後期と考えられる。

第2号住居跡出土遺物（図版17・18）

各柱穴から土器片が出土しているが器形が復元できる土器は出土しなかつた。加曾利B式期の土器が多い。磨石が1点出土している。

第3号住居跡（第9図、図版3、4）

第3号住居跡は、調査区北西端のE-1・2グリッドに位置し、北に向かって傾斜が始まる場所に構築されている。柱穴及び炉跡検出面からさらに覆土があるようであったが、住居の平面形態は確認できなかつた。柱穴の配置から2~3時期の住居が重複していると思われる。住居は調査区外に統いでいるため規模は不明である。埋甕及び炉は、住居に伴わない可能性も考えられる。

埋甕を住居跡東端で検出した。後期安行式期の深鉢形土器で粗製である。胴部下方に被熱の跡があつた。

炉跡を住居跡中央やや南東寄りの位置で検出した。平面形は梢円形で、底面は被熱により硬化している。覆土中から大量の焼土を検出した。

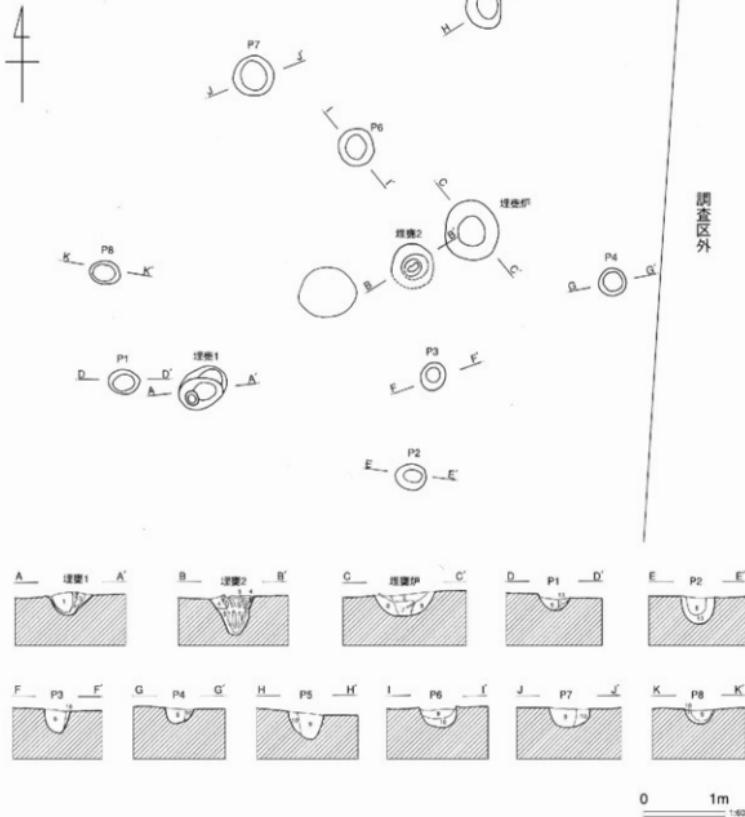
本住居跡の所属時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第3号住居跡出土遺物（図版4、8、17・18）

埋甕は深鉢形土器で、完形の状態で出土した。高さ37.5cm、口径29.0cm、口径3.4cmである。

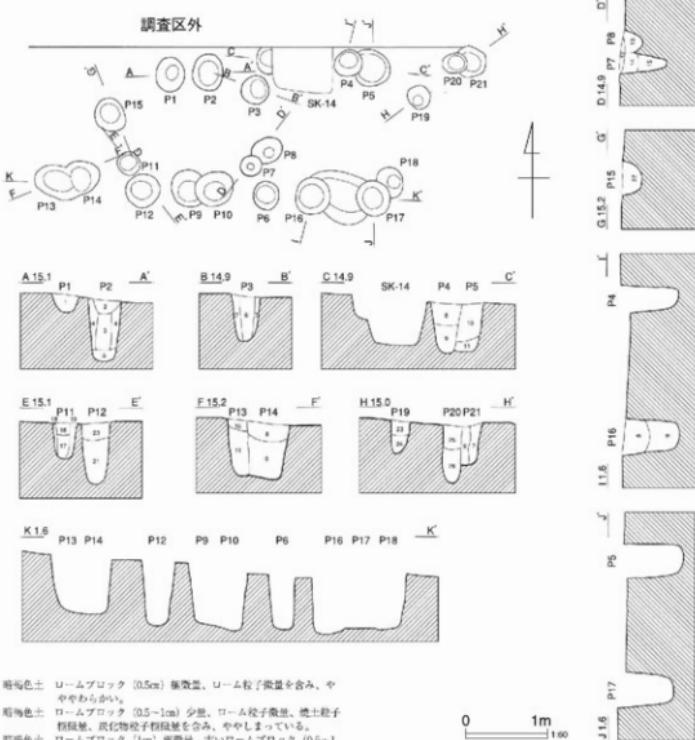
覆土、柱穴、炉跡より加曾利B式期~安行2式期の土器片が出土している。石器は敲石1点、凹石1点が出土している。

S J - 1



1. 黄褐色土 ローム粒子少量、洗土粒子粗粒量、炭化物粒子粗粒量を含み、ややしまっている。
 2. 黑褐色土 ローム粒子微量、洗土粒子粗粒量、炭化物粒子粗粒量を含み、しまっている。
 3. 黄褐色土 ロームブロック (0.3cm) 粒微量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
 4. 棕色土 ロームブロック (0.3~0.5cm) 少量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
 5. 棕色土 ロームブロック (0.5cm) 多量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
 6. 黄褐色土 ロームブロック (0.5cm) 粒量、ローム粒子粗粒量、洗土粒子粗粒量を含み、ややしまっている。
 7. 黄褐色土 ローム粒子微量、洗土粒子粗粒量を含み、しまっている。
8. 黄色土 ローム粒子少量、洗土粒子微量を含み、しまっている。土に運搬が遅り力の粗土。
 9. 黑褐色土 ロームブロック (1cm) 粒量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
 10. 黄色土 ロームブロック (0.2~1cm) 粒量、ローム粒子微量を含み、しまっている。

第7図 第1号住居跡遺構図



第8図 第2号住居跡遺構図

(2) 土壙

第1号土壙（第10図、図版4、5）

第1号土壙は、調査区南端のG-1グリッドに位置しており、平面形態は円形を呈している。規模は長軸1.36m、残存短軸1.23m、深さ1.76mである。南西にあるムロによって半分ほど壊されている。

遺物は、大量の土器片が出土した。接合の結果、器形が復元できたものが4個体あった。土製耳飾と土製円盤が1点ずつ出土した。

遺構の所属時期は、加曾利B式期～安行1式期と考えられる。

第1号土壙出土遺物（図版8、9、11、17）

1は安行1式期の浅鉢形土器で、高さ13.2cm、口径22.4cm、底径7.2cmで、胴部上半から底部まで煤が多く付いている。2は後期安行式期の深鉢形土器で、残存高21.5cm、口径30.3cmである。3は後期安行式期の深鉢形土器で、残存高27.8cm、推定口径26.6cmである。4は後期安行式期の深鉢形土器で、残存高22.5cmで口径は推定できなかつた。石器は、打製石斧、磨製石斧、磨石兼凹石、凹石、石棒が1点ずつ出土している。

第4号土壙（第10図、図版5）

第4号土壙は、南西端のG-1グリッドに位置し、平面形態は円形を呈している。規模は長軸1.09m、短軸1.06m、深さ0.91mである。底部中央に長軸0.61m、短軸0.50m、0.11mの窪みがある。

遺構の所属時期は縄文時代後期と思われる。

第4号土壙出土遺物（図版9、17）

1は安行1式期の台付鉢の台部で、残存高14.3cm、底径16.5cmである。土壙の底に近い位置から底部を上にした状態で出土した。

加曾利B式期～安行1式期の土器片が出土している。

第6号土壙（第10図、図版6）

第6号土壙は、中央西寄りのF-2グリッドに位置しており、平面形態は円形を呈している。0.86m、短軸0.84m、深さ1.04mである。底部中

央に長軸0.27m、短軸0.25m、0.10mの窪みがある。

遺構の所属時期は縄文時代後期と思われる。

第6号土壙出土遺物（図版18）

加曾利B式期～安行1式期の土器片が出土している。

第16号土壙（第10図、図版6）

第16号土壙は、東端のF-3グリッドに位置しており、遺構の半分ほどが調査区外へ続いている。平面形態は梢円形に近い形を呈していると思われる。長軸1.18m、検出短軸0.59m、深さ0.39mである。

遺構の所属時期は縄文時代後期と思われる。

第16号土壙出土遺物（図版18）

加曾利B式期～安行1式期の土器片が出土している。

(3) 埋甕

第1号埋甕（第11図、図版7）

第1号埋甕は、調査区中央西寄りのF-2グリッドに位置し、平面形態はほぼ円形を呈している。規模は直径0.70m、深さ0.21mである。

遺構の所属時期は縄文時代後期と思われる。

第1号埋甕出土遺物（図版9）

後期安行式期の深鉢形土器で、残存高17.5cm、底径3.8cmである。

(4) 焼土

第1号焼土（第11図、図版6）

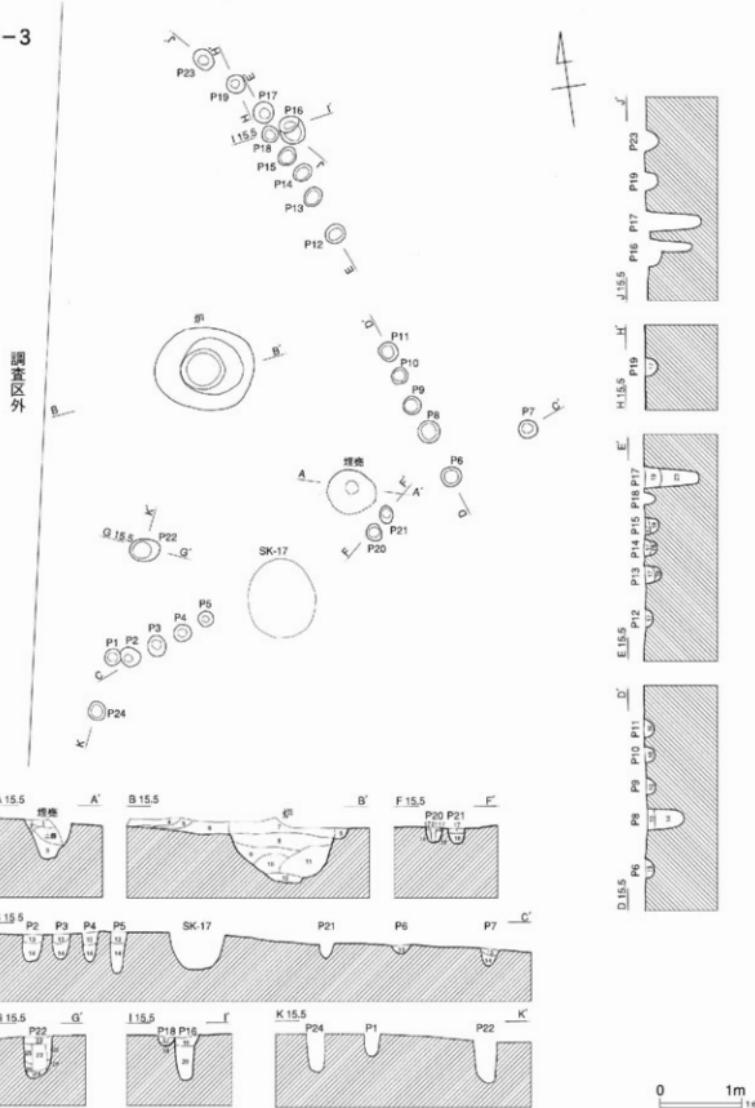
第1号焼土は、調査区北東端のE-3グリッドに位置し、平面形態は梢円形を呈している。規模は長軸1.25、短軸0.91m、深さ0.25m（P1は0.63m、P2は0.52m）である。

遺構の所属時期は出土した土器片から縄文時代後期と思われる。

第1号焼土出土遺物（図版18）

加曾利B式期～安行1式期の土器片が出土している。

S J - 3



第9図 第3号住居跡遺構図

- 1 砂褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子細粒量、炭化物粒子細粒量を含み、やややわらかい。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (0.5cm) 多量、ローム粒子多量を含み、ややしまっている。
- 3 黑褐色土 ロームブロック (0.5~2cm) 多量、ローム粒子少量を含み、ややしまっている。
- 4 黑褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子多量、炭化物粒子細粒量を含み、やややわらかい。
- 5 黑褐色土 ロームブロック (0.5~0.5cm) (黒色) 微量、ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化物粒子細粒量を含み、しまっている。
- 6 黑褐色土 ロームブロック (0.5~0.5cm) (黒色) 少量、ローム粒子細粒量、焼土粒子細粒量を含み、しまっている。
- 7 黑褐色土 ロームブロック (0.1~0.3cm) 微量、ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物粒子細粒量を含み、ややしまっている。
- 8 黑褐色土 ロームブロック (0.3~0.5cm) (焼けている) 微量、ローム粒子多量、焼土粒子少量、焼土粒子細粒量を含み、ややしまっている。
- 9 黑褐色土 ローム粒子細粒量、焼土ブロック (0.1~0.3cm) 少量、焼土粒子少量を含み、やややわらかい。
- 10 黑褐色土 烧土ブロック (1~2cm) 多量、焼土ブロック (2~3cm) 少量、焼土粒子多量を含み、やややわらかい。
- 11 黑褐色土 烧土ブロック (0.3~1cm) 非常に多量、焼土粒子非常に多量を含み、やややわらかい。
- 12 黑褐色土 ロームブロック (0.3cm) (焼けている) 細粒量、ローム粒子微量、焼土粒子少量を含み、やわらかい。
- 13 黑褐色土 ロームブロック (0.1~0.3cm) 多量、ローム粒子微量、炭化物粒子細粒量を含み、しまっている。
- 14 砂褐色土 ロームブロック (0.3~1cm) 少量、ローム粒子少量、炭化物ブロック (5cm) 細粒量、炭化物粒子細粒量を含み、やややわらかい。
- 15 黑褐色土 ロームブロック (0.3~1cm) 多量、ローム粒子細粒量、炭化物粒子細粒量を含み、しまっている。(強か?)
- 16 黑褐色土 ロームブロック (0.5cm) 多量、ローム粒子少量、炭化物粒子細粒量を含み、しまっている。
- 17 砂褐色土 ロームブロック (1cm) 多量、ローム粒子少量、焼土粒子細粒量、炭化物粒子細粒量を含み、ややしまっている。
- 18 砂褐色土 ロームブロック (2cm) 少量、ローム粒子微量、焼土粒子細粒量、炭化物粒子細粒量を含み、しまっている。
- 19 黑褐色土 ロームブロック (0.3~1cm) 少量、ローム粒子多量、炭化物粒子細粒量を含み、しまっている。
- 20 黑褐色土 ロームブロック (0.5~2cm) 多量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 21 黑褐色土 ロームブロック (0.1~0.5cm) 少量、ローム粒子少量、炭化物粒子細粒量を含み、ややしまっている。
- 22 砂褐色土 ロームブロック (0.1~2cm) 微量、新しいロームブロック (0.3cm) 多量、ローム粒子多量、炭化物粒子細粒量を含み、ややしまっている。
- 23 黑褐色土 ロームブロック (0.1~1cm) 多量、ローム粒子少量、焼土粒子細粒量、炭化物粒子細粒量を含み、やややわらかい。
- 24 黑褐色土 ロームブロック (0.3~1cm) 非常に多量、ローム粒子細粒量を含み、しまっている。
- 25 黑褐色土 ロームブロック (0.1~0.5cm) 少量、ローム粒子微量、炭化物粒子細粒量を含み、やややわらかい。
- 26 砂褐色土 ロームブロック (0.3~0.5cm) 少量、ローム粒子細粒量を含み、ややしまっている。

第2号焼土（第11図、図版7）

第2号焼土は、調査区北東のE-3グリッド、第1号住居跡内に位置し、平面形態は楕円形を呈している。規模は長軸0.72m、短軸0.60m、深さ0.30mである。

遺構の所属時期は、出土した土器片から縄文時代後期と思われる。

(5) 遺構外出土遺物（図12~14、図版7、9~16、18~20）

大量の土器片が出土したが、器形が復元できたのは8個体である。石器、土製品、石製品も出土している。

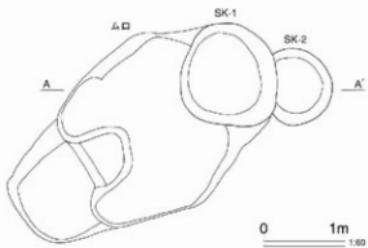
土器片は、加曾利E式期～前浦式期までの土器片が出土したが、加曾利B式期～安行2式期までのものが多く出土した。

1は安行3式期の台付鉢で、高さ10.3cm、口径8.9cmである。2は加曾利B式期の台付浅鉢で高さ

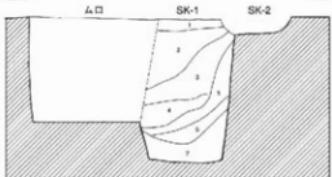
17.3cm、口径23.6cm、底径13.3cmである。3は安行3式期の台付鉢で、高さ13.9cm、推定口径17.7cm、推定底径13.0cmである。4は安行3式期の注口土器口縁で、残存高7.5cm、口径12.0cmである。5は後期安行式期の深鉢形土器で、残存高14.1cm、口径9.0cmである。6は安行1式期の鉢で、残存高6.4cm、残存胴部最大径27.5cmである。7は堀之内式期の深鉢形土器で、残存高24.7cm、推定口径22.0cmである。8は安行3式期の注口土器で残存高10.7cm、残存胴部最大径18.5cmである。

土製品は土偶16点、土版2点、耳飾10点、土錐1点、土製円盤1点が出土している。石器は、打製石斧6点、磨製石斧1点、小型磨製石斧1点、敲石1点、凹石2点、磨石4点、脚付石皿1点、石鐵1点、石剣3点、石棒1点が出土している。石製品は、石製円盤1点、翡翠製大珠1点が出土している。土偶・土版については第2表にまとめである。

SK-1

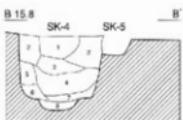


A 15.8



- 1 短開色土 ローム粒子多量、洗土粒子少量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 2 短開色土 ローム粒子非常に多量、洗土粒子微量で、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。土器を多く含む。ホロセロ（ムジの方にくずれたか）。
- 3 短開色土 ロームブロック (0.2~0.5cm) 少量、ローム粒子微量、炭化物粒子少量を含み、やややわらかい。
- 4 黒色土 ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、やわらかい。さらさら。
- 5 短開色土 ロームブロック (0.3~2cm) 少量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 6 短開色土 ロームブロック (0.3~1cm) 微量、ローム粒子少量を含み、やややわらかい。
- 7 黑色土 ロームブロック (0.3cm) 微量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。

SK-4



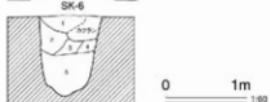
0 1m
1:60

- 1 黒色土 ロームブロック (0.3~6cm) 多量、ローム粒子多量、洗土粒子微量。炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 2 黒色土 ロームブロック (0.2~0.5cm) 微量、ローム粒子非常に多量、洗土粒子微量。炭化物粒子少量を含み、しまっている。
- 3 黒色土 ローム粒子少量、洗土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 4 黑色土 ローム粒子微量、洗土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 5 短開色土 ロームブロック (0.1~0.3cm) 多量、ローム粒子非常に多量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 6 短開色土 ロームブロック (0.1~1cm) 少量、ローム粒子非常に多量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 7 短開色土 ロームブロック (0.1~3cm) 微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 8 短開色土 ロームブロック (0.3~0.5cm) 微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。

SK-6



A 15.7

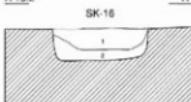


- 1 短開色土 ロームブロック (2cm) 褐色、ローム粒子少量、洗土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 2 短開色土 ロームブロック (1~2cm) 少量、ローム粒子少量、洗土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 3 短開色土 ロームブロック (1~2cm) 少量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 4 黑色土 ロームブロック (2cm) 褐色、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 5 短開色土 ロームブロック (0.5~1cm) 褐色、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。

SK-16



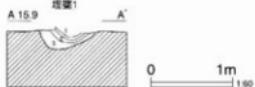
A 15.2



- 1 黑色土 ロームブロック (0.3~1cm) 微量、ローム粒子微量、洗土粒子板微量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 2 短開色土 ロームブロック (0.3~2cm) 褐色に多量含み、やややわらかい。

第10図 第1・4・6・16号土壤遺構図

第1号埋甕



1. 黒褐色土 ローム粒子細量、焼土粒子極微量、炭化物粒子極微量を含み、やややわらかい。
2. 短褐色土 ロームブロック (1cm) 相対量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
3. 黑色土 ロームブロック (1~3cm) 少量、ローム粒子少量、焼土粒子相対量、炭化物粒子極微量を含み、ややしまっている。

焼土2



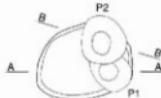
A15.1 焼土2



0 1m 1:60

1. 短褐色土 烧土ブロック (0.2~0.3cm) 集量、焼土粒子非常に多量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
2. 黑色土 ロームブロック (0.5~1cm) 集量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
3. 短褐色土 ロームブロック (1~2cm) 多量、ローム粒子少量、焼土粒子相対量、炭化物粒子極微量を含み、ややしまっている。

焼土1



A15.0 焼土1



B15.0 焼土1



0 1m 1:60

1. 短褐色土 ロームブロック (0.5~1cm) 多量、ローム粒子細量を含み、しまっている。
2. 黑色土 ロームブロック (0.1~2cm) 多量、ローム粒子少量を含み、しまっている。
3. 短褐色土 ロームブロック (0.1~0.2cm) 極量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子極微量を含み、ややしまっている。
4. 黑褐色土 ロームブロック (0.1~2cm) 集量、ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
5. 黑色土 ロームブロック (0.2~1cm) 少量、ローム粒子少量、焼土粒子相対量、炭化物粒子極微量を含み、ややしまっている。

第11図 第1号埋甕、焼土1・2遺構図

V 調査のまとめ

1. 調査の成果

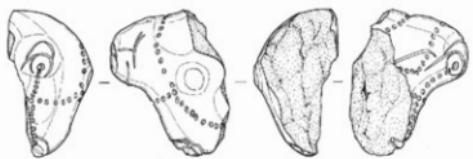
今回の発掘調査をもとに本上遺跡の集落変遷について述べると、縄文時代中期の加曾利E IV式期に集落が作られたが一度断続している。後期の堀之内式期から晩期の安行3式期にかけて環状盛土遺構を形成したと考えられる。出土遺物の量や検出遺構から、加曾利B式期～安行2式期までが集落のピークだったようである。ただ、包含層中に焼土や、土器の埋設、黒色土層中に周りよりも多くの土器片が出土する地点などがあり、包含層中にも遺構があった可能性は非常に高い。

引用・参考文献

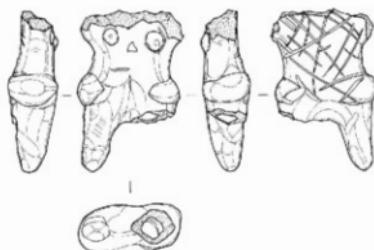
- 新谷雅明・菊地真 2007年 「久台遺跡III」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第339集
上野真由美・渡辺清志 2005年 「雅楽谷遺跡II」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書307集

出土遺物で特記すべきものは、土偶、ミニチュア土器、耳飾、翡翠製大珠である。他の環状盛土遺構でも上記の遺物が多く出土するが、これらは地域の拠点的な集落であったと証明する物証の一つと言える。

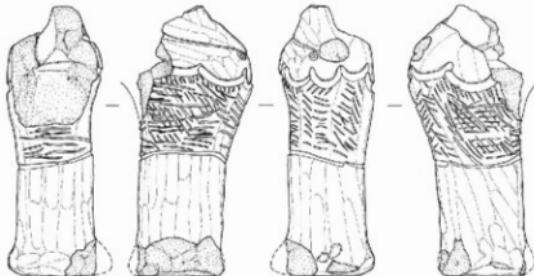
今後の発掘調査の成果や今までの出土遺物のさらなる研究から本上遺跡の環状盛土遺構の形成過程や集落の在り方など多くのことを明らかにしていきたい。



1



2



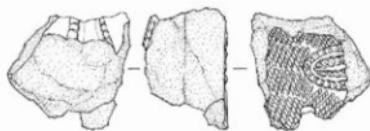
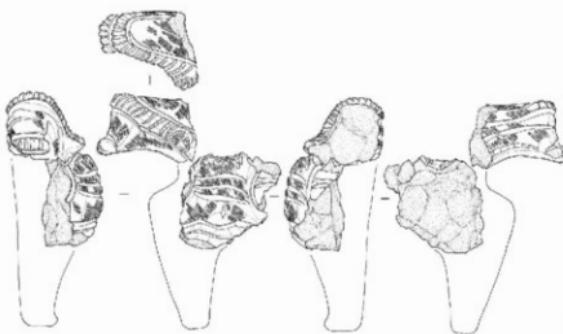
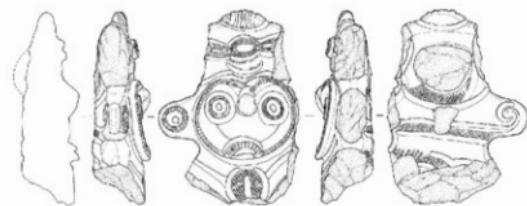
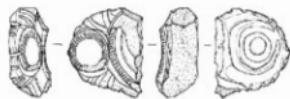
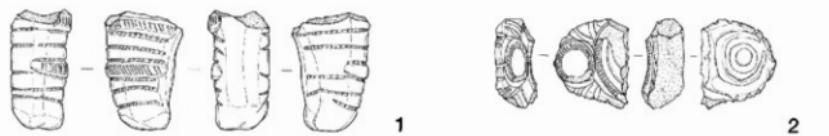
3



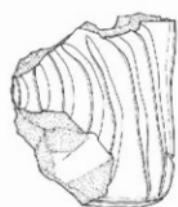
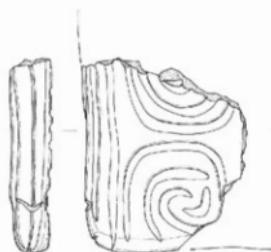
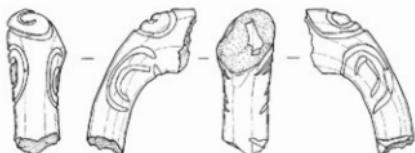
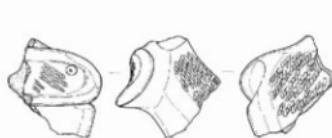
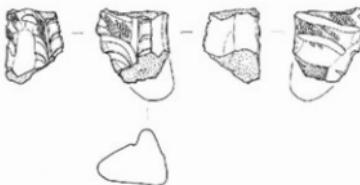
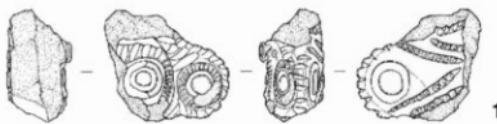
4

第12図 遺構外出土遺物①（土偶）





第13図 遺構外出土遺物②（上側）



0 5cm

第14図 遺構外出土遺物③（上偶・上版）

第2表 造構外出土遺物（土偶・土版）一覧表

(単位: cm)

No	種類	現存高	最大幅	最大厚	時期	色調	胎土と焼成	特徴ほか
第12図1	後期土偶	6.1	4.9	3.4	後期前葉	黒褐色	密。白色砂粒混。焼成良。	後期前葉の三角形土偶の影響を受けた土偶。頭部及び左半身を欠く。円形の烈点文で施文。
第12図2	山形土偶	6.6	4.3	2.0	加曾利B	赤褐色	粗。白色砂粒、褐色粒子混。焼成良。	粗製の山形土偶。頭部及び左脚欠。左脚破損部にソケット式の接合痕が観察できる。背部は、斜格子状の細沈線で施文。
第12図3	山形土偶	11.1	4.7	3.9	加曾利B	灰褐色 赤彩有	粗。白色砂粒、褐色粒子混。焼成良。	山形土偶の左脚。足部の周囲を欠く。沈線及び細沈線による施文。無文部分はヘラで丁寧に撫でている。完形なら30cm強になる。
第12図4	山形土偶	5.9	5.6	3.0	加曾利B3	橙褐色	密。長石、褐色粒子混。焼成良。	末期の山形土偶。粗製。下半身、左腕、右腕先、後頭部を欠く。無文。
第13図1	ミミヅク土偶	4.9	3.2	2.5	安行2	褐色	密。白色砂粒混。焼成良。	ミミヅク土偶の右脚。刺突による沈線。隆帝上には、細密なストリットがある。
第13図2	ミミヅク土偶	3.7	3.2	1.7	安行3 a	黒褐色	密。	ミミヅク土偶の右顎面端及び耳の部分。頬の輪郭及び耳飾正面は細密な割みが入った隆帯、耳飾背面は同心円状の沈線で表現。
第13図3	ミミヅク土偶	12.9	9.3	3.8	安行3 a	橙褐色	密。白色砂粒混。焼成良。	ミミヅク土偶頭部。胸部以下、左耳、左右の頭部装飾、後頭部のコブを欠く。繩文(LR)を施した後、沈線で施文。完形ならば30cmを超す大型の土偶。
第13図4	ミミヅク土偶	9.2	11.0	5.8	安行3 a	黒褐色 赤彩有	粗。白色砂粒多く混じる。焼成は脆い。	ミミヅク土偶の右脚。刺突による沈線。隆帝上には、細密なストリットがある。
第13図5	ミミヅク土偶	3.4	2.5	2.3	安行3 a	黒褐色 赤彩有	粗。白色砂粒多く混じる。焼成は脆い。	ミミヅク土偶の左背面。第13図5と同一個体。ただし接合点なし。
第13図6	ミミヅク土偶	5.0	5.0	3.9	安行3 a	黒褐色 赤彩有	粗。白色砂粒、輝石混じる。焼成は脆い。	頭部。繩文(LR)を施した後、刺突による沈線で施文。背面上には赤彩痕が真っ赤に残る。
第14図1	ミミヅク土偶	4.6	5.1	2.6	安行3 a	灰褐色	密。白色砂粒多く混じる。焼成良。	頭部の左半分、頭頂部も欠く。頬の輪郭及び耳飾正面には細かい割みに入る。頭部背面には円形の烈点で沈線が施される。
第14図2	ミミヅク土偶	3.1	2.9	2.3	晩期	灰褐色	密。白色砂粒多く混じる。焼成良。	右脚部。繩文(RL)の後沈線を施文。
第14図3	土偶(?)	4.2	3.8	4.3	晩期	黒褐色	密。白色砂粒混じる。焼成良。	頭部左半(?)。円形の刺突で眼(?)を表現。顎面部にはRL、背面にはLRの繩文が施される。
第14図4	土偶	6.0	4.5	2.4	晩期	橙褐色	密。白色砂粒、褐色粒子混。焼成良。	右腕。破損面に、整形時の芯の痕跡が観察できる。
第14図5	土偶(?)	3.5	4.1	2.0	晩期	灰褐色	密。白色砂粒混じる。焼成良。	左腕(?)。無文。腋下に筋状の凹み有。
第14図6	土偶(?)	2.8	4.1	3.5	晩期	橙褐色	密。砂粒多く混じる。焼成良。	右肩(?)。無文。正面に隆帯状の裝飾有。
第14図7	土版	8.0	6.8	1.8	晩期	黒褐色 赤彩有	密。白色砂粒多く混じる。焼成良。	右下部約4分の1を残す。同心円状の沈線で施文。
第14図8	土版	5.0	4.5	1.5	晩期	黒褐色 赤彩有	密。砂粒多く混じる。焼成良。	土版の一部。同心円状の沈線で施文。沈線内に赤彩痕残る。

写 真 図 版

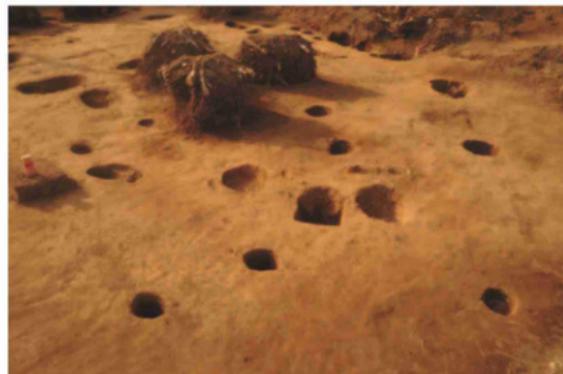


1 全景写真（北から）



2 全景写真（南から）

図版 2



1 第1号住居跡 完掘状況(南東から)



2 第1号住居跡 埋甕炉遺物出土状況



3 第1号住居跡 第1号埋甕出土状況



1 第1号住居跡 第2号埋甕出土状



2 第2号住居跡 完掘状況（南から）



3 第3号住居跡 完掘状況（南東から）

図版 4



1 第3号住居跡 炉跡完掘状況
(北から)



2 第3号住居跡 埋甕出土状況



3 第1号土壤 遺物出土状況



1 第 1 号土壤 完掘状況
(北東から)



2 第 4 号土壤 遺物出土状況



3 第 4 号土壤 完掘状況 (西から)

図版 6



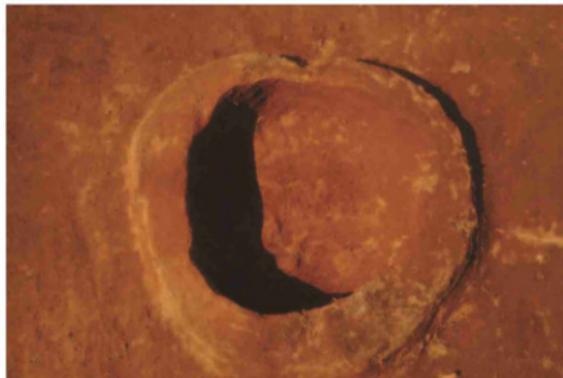
1 第6号土壤 完掘状況（北から）



2 第16号土壤 完掘状況（西から）



3 第1号焼土 完掘状況（西から）



1 第2号焼土 完掘状況（東から）



2 第1号埋甕 出土状況（西から）



3 造構外遺物出土状況

图版 8



1 第 1 号住居跡出土炉体土器



2 第 1 号住居跡出土第 1 号埋甕



3 第 1 号住居跡出土第 2 号埋甕



4 第 3 号住居跡出土埋甕



5 第 1 号土壤出土遺物①



6 第 1 号土壤出土遺物②



1 第 1 号土壤出土遗物③



2 第 1 号土壤出土遗物④



3 第 4 号土壤出土遗物



4 第 1 号埋囊出土遗物



5 遗構外出土遗物①



6 遗構外出土遗物②

圖版 10



1 遺構外出土遺物③



2 遺構外出土遺物④



3 遺構外出土遺物⑤



4 遺構外出土遺物⑥



5 遺構外出土遺物⑦



6 遺構外出土遺物⑧



図版 12



1 遺構外出土土製品① (第12図)



2 遺構外出土土製品①裏面 (第12図)



3 遺構外出土土製品② (第12図)



4 遺構外出土土製品②裏面 (第12図)



5 遺構外出土土製品③ (第12図)



6 遺構外出土土製品③裏面 (第12図)



7 遺構外出土土製品④ (第12図)



7 遺構外出土土製品④裏面 (第12図)



1 遺構外出土土製品⑤（第13図）



2 遺構外出土土製品⑥（第13図）



3 遺構外出土土製品⑦（第13図）



4 遺構外出土土製品⑦裏面（第13図）



5 遺構外出土土製品⑧（第13図）



6 遺構外出土土製品⑧裏面（第13図）



7 遺構外出土土製品⑨（第13図）



8 遺構外出土土製品⑩（第13図）



1 遺構外出土土製品① (第14図)



2 遺構外出土土製品②裏面 (第14図)



3 遺構外出土土製品③ (第14図)



4 遺構外出土土製品④ (第14図)



5 遺構外出土土製品⑤ (第14図)



6 遺構外出土土製品⑥裏面 (第14図)



7 遺構外出土土製品⑦ (第14図)



8 遺構外出土土製品⑧ (第14図)



1 遺構外出土土製品⑦ (第14図)



2 遺構外出土土製品⑧ (第14図)



3 遺構外出土土製品⑨



4 遺構外出土土製品⑩



5 遺構外出土土製品⑪



6 遺構外出土土製品⑫



7 遺構外出土土製品⑬



8 遺構外出土石器①

圖版 16



1 遺構外出土石器②



2 遺構外出土石器②裏面



3 遺構外出土石製品①



4 遺構外出土石製品①裏面



1 第 2 号住居跡出土土器片



2 第 3 号住居跡出土土器片



3 第 1 号土壤出土土器片①



4 第 1 号土壤出土土器片②



5 第 1 号土壤出土土器片③



6 第 4 号土壤出土土器片

圖版 18



1 第6号土壤出土土器片



2 第16号土壤出土土器片



3 烧土 1 出土土器片



4 第2号住居跡、第3号住居跡、第1号土壤出土石器



5 第1号土壤出土石器



6 遗構外出土土器片①



1 遺構外出土土器片②



2 遺構外出土土器片③



3 遺構外出土土器片④



4 遺構外出土土器片⑤



5 遺構外出土土器片⑥



6 遺構外出土土器片⑦

図版 20



1 遺構外出土土器片⑧



2 遺構外出土土器片⑨



3 遺構外出土石器⑩



4 遺構外出土石器⑪



5 遺構外出土石器⑫



6 総合文化祭での展示の様子

報告書抄録

ふりがな 書名	ほんがみいせき 本上遺跡								
シリーズ名	伊奈町埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第2集								
著者氏名	小杉秀幸								
編集機関	伊奈町教育委員会								
所在地	埼玉県北足立郡伊奈町大字小室9493								
発行年月日	西暦2013（平成25）年3月31日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
	市町村	遺跡							
ほんがみいせき 本上遺跡	埼玉県北足立郡 伊奈町大字本上 2丁目156番2他	18	28	35°59'48"	139°37'52"	20120221 ～ 20120330	440	宅地造成	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
本上遺跡	集落跡	縄文時代 中期～晚期	竪穴住居跡 土塁	3基 4基	縄文土器・土偶・耳飾 石器・翡翠製大珠		谷頭部斜面に立地する縄文時代中期～晚期の集落。 後期から晩期にかけて環状盛土を形成している。		

伊奈町埋蔵文化財調査報告書 第2集

本上遺跡

埋蔵文化財調査報告

平成25年3月14日 印刷

平成25年3月15日 刊行

発行／伊奈町教育委員会

〒362-8517 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室9493

電話 0487212111

印刷／株式会社エコー宣伝印刷